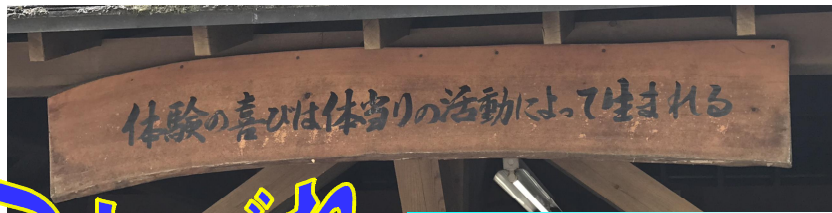


六所つれづれ



豊田市総合野外センター
令和元年5月21日 6号

運動広場は、 夢いっぱいです

この通信を通じて、新ハイキングコース「ウグイスコース」の紹介と、運動広場利用の呼びかけをしました。おかげで、両方の施設とも多くの方々の利用があります。若葉青葉の季節、とくに雨上がりの日は、いちだんと緑がまぶしく映えます。

先日、こども園のみなさんが運動広場にみえました。昼食(正確には「おにぎり」)をはさんで、運動広場を駆け回りました。



ところ狭しと自転車に乗る子どもも。広場の中央では、大タイヤ転がし。遊具では「柱越え」にチャレンジ。自分で遊びを考え、順番を待ち、場合によっては助けを請う。



そういう判断を瞬時に行い、自ら考え動く姿がありました。広々とした運動広場を駆け回る園児は、たくましく、さすが年長さんと思いました。

「六所のつどい」 …5/11～12開催

本年度、第一回の「六所のつどい」を開催しました。テーマはそのものず

ばり『やってみよう！春のキャンプ』です。小4から中1までの42名が参加しました。



春のキャンプの「お品書き」は、次のとおりです。

<1日目>

- ・入所式、オリエンテーション
…あいさつ、自己紹介、テント生活について
- ・野外炊事
…火起こし、薪割り
カレーライスづくり
- ・キャンプファイヤー
- ・テント泊

<2日目>

- ・野外炊事
…ホットサンドづくり
- ・クラフト
…葉っぱのバッジづくり
- ・アンケート
…思い出を綴る
- ・退所式



<薪割り>

活動のようすを写真で紹介します。グループ活動を中心にした活動を多く取り入れ、仲間づくりもすすみました。まさに、「同じ釜の飯を食う」という関係



<カレーライスづくり>

づくりをめざしたものです。声をかけ、相談し、活動に取り組みました。



<いただきます>



<キャンプファイヤー>

次の写真は、会場のA広場炊事棟の軒先にある看板です。



「自然を知るとは

自分の体と心の働きである」

と記されています。

自然の中で、キャンプ活動を通して、仲間とともにやり抜く春のキャンプ。目的を十分果たした一泊二日のチャレンジになりました。この後も、「六所のつどい」を開催します。今回に続いて再度の参加、選に漏れた方の参加を心よりお待ちしております。

困難克服… 雨中のチャレンジ

日に日に日差しがまぶしくなる中、この日は朝から雨模様です。そんな中、学校から野外センターまで、徒歩で来所された中学生のみなさんです。

六所に限らず、キャンプ場での最大の関心事は、天候です。暑さや寒さは

もちろんのこと、とくに心配なのが「雨」です。



降り続く雨の中、傘をさし、雨合羽を着て、野外センターに到着。途中、ボランティアの保護者の励ましを受け、二十キロ近くを踏破しました。

○「こんにちは」「お願いします」

○「いらっしゃい」「ようこそ、六所へ」「お風呂の準備は、OKです」

雨中、体力を消耗したにもかかわらず、ほんとうに元気いっぱいです。団結力と一つ上の自分、学年のスローガンをそのまま実践されました。

幸い、翌日以降は好天に恵まれ、充実した時間を過ごすことができました。写真は、最終日の野外炊事の様子です。



先生とともに、五平餅に舌鼓を打っています。困難を乗り越えた上での「ほっとタイム」のひとつです。

実地調査ありがとうございます

昨年の夏は、猛暑・酷暑でした。7月から8月にかけてのまれにみる暑さ

は、記憶に新しいことです。ここ野外センターも例外ではなく、玄関の温度計が35度を超える日も、何日かありました。そうした中、何度も六所を訪れ、現地の状況調査や実施可能なプログラムを試行錯誤される団体がありました。



豊田子ども会育成連絡協議会、通称「市子連」といわれるみなさんです。この日も、事前に関開発したプログラムを実地検証し、よりよいものに仕上げようとする目的でみえました。

昨年度来、かわりをもたせていただきましたが、来所されるたびに「利用者の立場」で担当所員と綿密なやりとりを繰り返してみえます。中でも、熱中症指数に基づく調査や検証は実に細部にわたっています。暑さ回避で事業そのものを中止するという直接的な対応だけでなく、暑さへの対応や対策、緊急時を想定しての万全の準備など、多岐に及んでの対応をしてみえます。

野外センターとしても、昨年の猛暑に対しては、

- ・活動場所でのエアコンのフル稼働
- ・熱中症指数を計測する機器の整備
- ・経口補水液や保冷剤の完備
- ・利用者への情報提供

など、各方面にわたる対応をしました。

さらに、自然の家そのものの暑さ対策をすすめています。具体的な内容は、今後、ホームページや本通信などを通じ、みなさんにお伝えしていきます。今後も、自然環境を十分に生かし、その上で快適な生活が送れるよう、改善に励んでまいります。

今後の野外センターの事業、よろしく

六所であそぼう、ファミリーキャンプ、六所のつどい…と、本格的な事業が始まっています。各事業とも、多くの方々の応募をいただき、ほんとうにありがとうございます。

以前にもお伝えしたように、本センターからのちらし配布が中止となりました。お知らせや募集方法や開始の案内などは、従前の広報とよたを通して行います。また、ホームページには募集などのちらしをそのまま掲示しますので、ご覧ください。

なお、ホームページは「豊田市総合野外センター」で検索する、あるいは



左のマークを読み取ってください。不明な点やお勧め情報など、

どのようなことでも総合野外センターへお問い合わせください。

魂知和

弁当を食べたから、帰りのリュックはちよつと軽くなったね。と言ったら、弁当じゃなくておにぎりだよ。と返ってきた。相手は、運動広場で遊び回った年長園児。なるほど、そういうことか▼弁当は弁当箱に入り、おにぎりは握ったご飯がラップやアルミに包まれている。仰せの通り、厳密に言えば違う。大人と子どもの感覚の違いか。山といえは山を指し、川といえは川を指す。大人には、それで十分通じる。しかし、子どもには通じない。山は大きいのか、高いのか。川は大きいのか、流れが急なのか。子どもにとつて、違いは大きいと改めて思う▼知らず知らず、物知り顔になり、知つたかぶりをする。質が悪いと、見ぬふりや聞こえぬふりで場を抜けようとする。あるいは、嘘も方便とばかり、虚飾で逃れようとする。だが、それを生かす術がある、逞しさがあると言うのか。あるいは、そうなることが成長につながることも言うのか。大人世界の「まあまあ、そこそこ、どうもどうも」は、子どもには通じない▼昨年より、幼児や園児から、大人や高齢の方まで幅広い年齢層の方と接するようになった。大人の分別とともに、子どもの純粹さや無邪気さが同時に存在する世界。大人同士の関係に救われることも多い一方、曖昧さを排除し、子どもにも伝わる術(すべ)も求められる。先の話題、弁当とおにぎりは同じ食事に違いないが、「厳密さと純粹さ」をもつ子どもにはかなわない。その通じなさこそ、大切にすべきと思う。